

鷺宮小学校・西中野小学校統合委員会 要点記録

第 6 回

開催日時	平成30年12月18日(火) 午後6時30分～7時40分	
開催場所	鷺宮区民活動センター分室 洋室2	
出席者	委員	高橋洋雄、田村邦彦、戸引一博、中川明、吉田和代、堀井裕子、宮内信子、黒木伸子、斉藤百合、浦野雅晴、茨田こごみ、武智直貴、岡本賢二、佐々木智津子、早乙女通英、高橋昭彦、石原千鶴 (敬称略、名簿順)
	事務局	学校・地域連携担当
	その他	子ども教育施設担当、パシフィックコンサルタンツ株式会社
会議次第	【議事】 1 統合新校の新校舎の基本構想・基本計画(案)について 2 その他	

第6回 鷺宮小学校・西中野小学校統合委員会 会議要旨

1 開会

委員長

これより第6回学校統合委員会を開会する。傍聴希望者はいない。本日は新校舎の検討を支援していただく設計会社である、パシフィックコンサルタンツ株式会社(以下パシコン)の皆さんに出席いただいている。議事に入る前に、本日の議事について、事務局から説明がある。

事務局

第2回から統合新校校舎についてご協議いただいているが、本日は新しくできる学校はこのような施設にしてほしいと、統合委員会から教育委員会に提出する意見書を取りまとめる。事前に郵送した意見案は、これまでの協議で出された意見をもとに作成している。本日はこちらについて意見をさらにいただき、適宜修正して統合委員会としての意見書を完成させたい。最終版については、後日委員長から教育委員会に報告してもらい、教育委員会はそれを踏まえて新校舎の整備を進めていく。

具体的なスケジュールは、まず教育委員会は意見書を受けて、1月に基本構想・基本計画(案)を取りまとめる。2月にその計画(案)について、区民との意見交換会を実施し、その内容を次回の統合委員会で報告する予定である。最終的には、3月に基本構想・基本計画を策定する予定である。本日は皆様から多くのご意見をいただきたい。

2 議事

議事（１）統合新校の新校舎の基本構想・基本計画（案）について

委員長

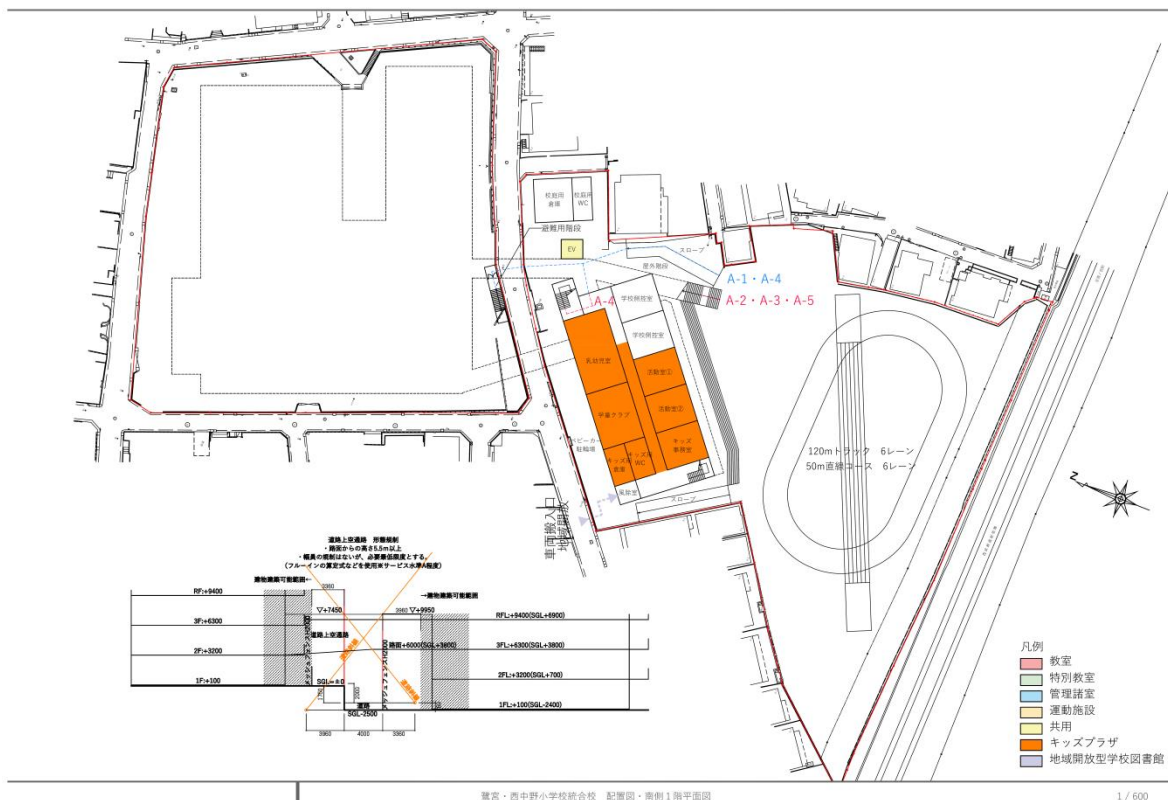
では、議事（１）統合新校の新校舎の基本構想・基本計画（案）について、事務局の説明をお願いします。

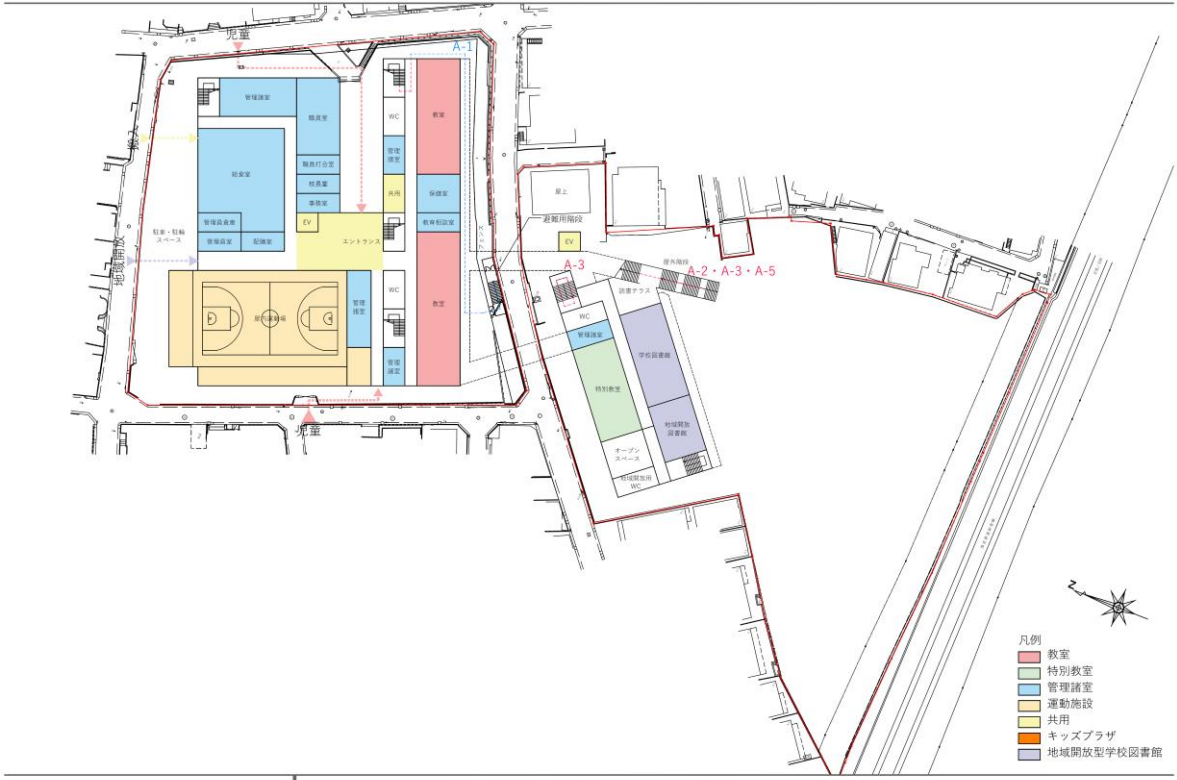
■資料「前回の学校統合委員会であidいただいたご意見」「配置案」を、教育委員会事務局副参事（子ども教育施設担当）及びパソコン担当者より説明

【前回の学校統合委員会であidいただいたご意見】

- （１）学校内の防災対策だけではなく、地域全体での防災対策も考慮して設計をしてほしい。
区の防災分野とも意見交換を行いながら、新校舎の検討を進めていきます。
- （２）災害等緊急時に、児童が冷静な行動を取れるか不透明なところがあるので、そのような児童特性も想定してほしい。
緊急時だけではなく、平常時における児童特性もあらためて考慮のうえ、計画をいたします。
- （３）火災発生時等、児童が校庭へ避難するまでの所要時間はどれくらいなのか。
火災発生時における避難の所要時間等について検証し、その結果を図面に記載させていただきました。

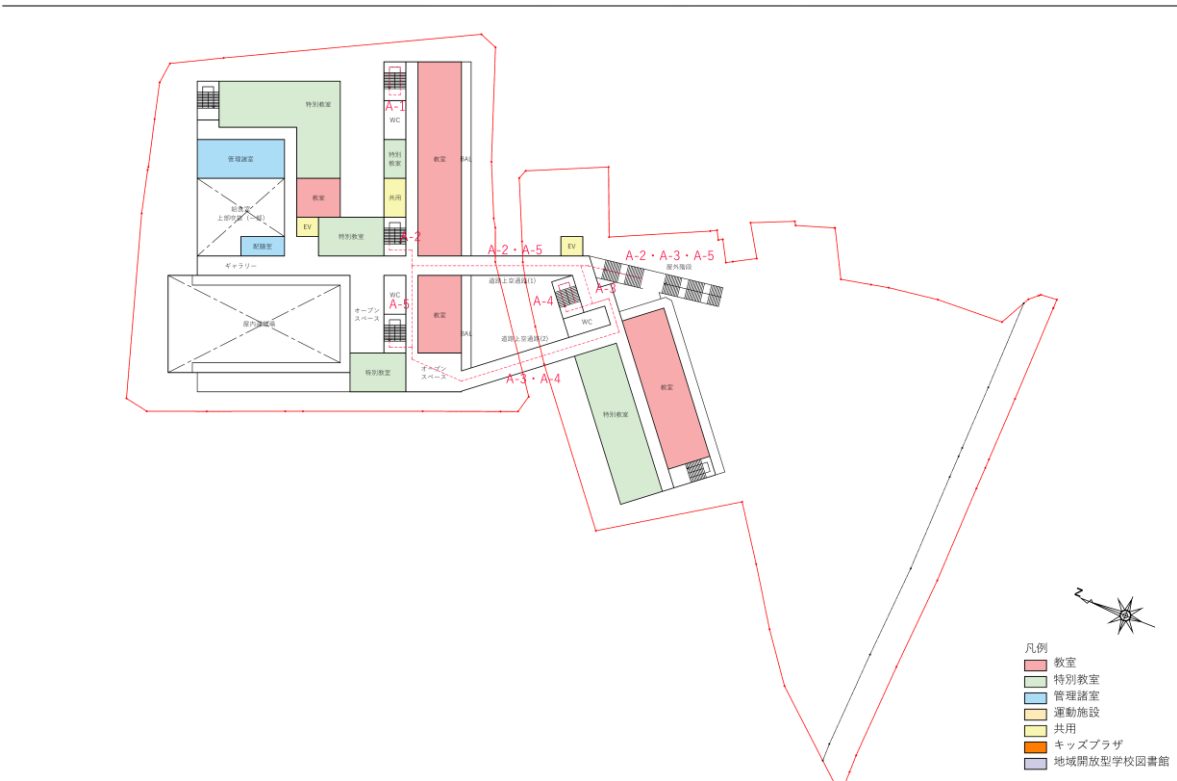
◎資料「配置案」





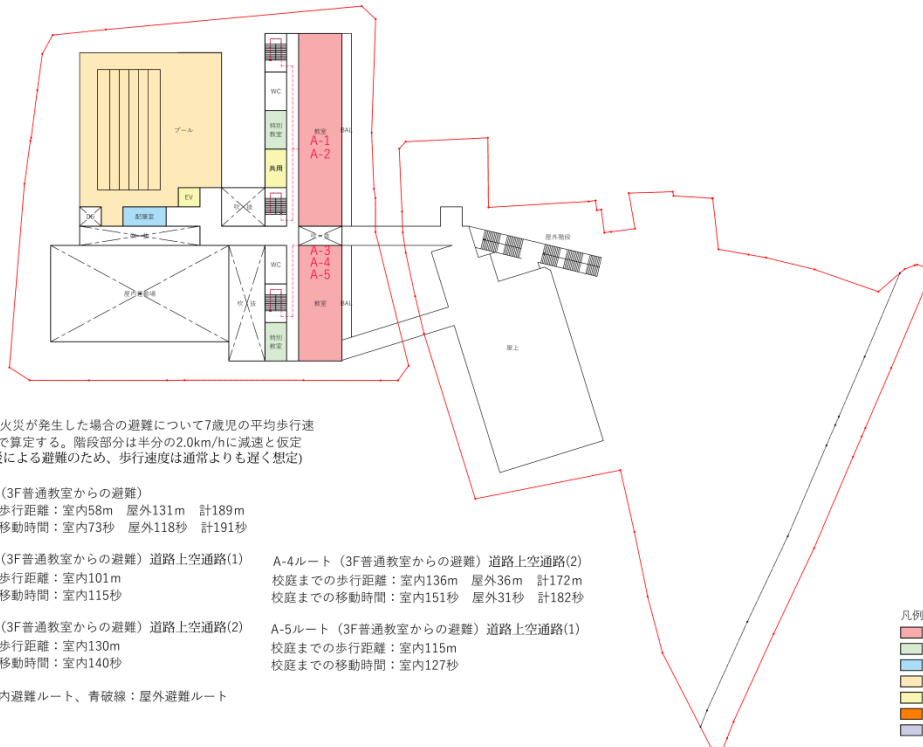
鷺宮・西中野小学校統合校 配置図・北側敷地1階南側敷地2階平面図

1 / 600



鷺宮・西中野小学校統合校 北側敷地2階・南側敷地3階平面図

1 / 600



給食室から火災が発生した場合の避難について7歳児の平均歩行速度4.1km/hで算定する。階段部分は半分2.0km/hに減速と仮定する。(火災による避難のため、歩行速度は通常よりも遅く想定)

A-1ルート (3F普通教室からの避難)
校庭までの歩行距離：室内58m 屋外131m 計189m
校庭までの移動時間：室内73秒 屋外118秒 計191秒

A-2ルート (3F普通教室からの避難) 道路上空通路(1)
校庭までの歩行距離：室内101m
校庭までの移動時間：室内115秒

A-3ルート (3F普通教室からの避難) 道路上空通路(2)
校庭までの歩行距離：室内130m
校庭までの移動時間：室内140秒

赤破線：室内避難ルート、青破線：屋外避難ルート

A-4ルート (3F普通教室からの避難) 道路上空通路(2)
校庭までの歩行距離：室内136m 屋外36m 計172m
校庭までの移動時間：室内151秒 屋外31秒 計182秒

A-5ルート (3F普通教室からの避難) 道路上空通路(1)
校庭までの歩行距離：室内115m
校庭までの移動時間：室内127秒



パソコン

図面の説明をする。前回の図面と同内容だが、給食室辺りから、火災が発生したときを想定し、3階から避難をしたときに校庭に出るまでの所要時間を計算した。最も歩行距離が長くなるA-1～5の5パターンを検証した。A-3、4、5については、スタート地点は同じだが、途中でルートを変えている。児童の歩行速度は、小学校1年生の7歳児程度の平均歩行速度の時速4.1kmとした。階段部分は、安全を見てその半分の速度で計算した。

A-1については、図面上側の教室の真ん中から出て、図面上の上側の階段を通過していることを想定している。北側校舎の3階から2階において、北側敷地2階・南側敷地3階平面図で上側にA-1と記載しているが、その階段をおり、さらに北側敷地1階南側敷地2階平面図の階段から校舎の東側から外に出て、青いルートを進んで西側に行くと、避難用に設けた階段を通り、南側1階平面図で道路を渡り、南側敷地に入ってスロープを渡り校舎に出るというルートにしている。このルートで、校庭までの歩行距離が約189m、移動時間は191秒の計算である。

A-2のルートを説明する。北側校舎の3階からスタートして、校舎の真ん中辺りにある階段を通る。北側敷地2階・南側敷地3階平面図の階段から道路上空通路を通過して、そのまま屋外階段をおりて校庭に行くルートである。このルートは、距離は101m、時間は約115秒で、2分かからない程度である。

A-3のルートを説明する。3階西側を通った避難ルートである。西側の階段をおりて、北側敷地2階・南側敷地3階平面図で道路上空通路を通り、屋外階段をおりて校庭に出るルートになっている。距離は約130m、所要時間は140秒である。

A-4のルートを説明する。A-3ルートと同様に3階の西側教室から階段をおりて道路上空通路を通る。その後、A-3から分岐し、南側校舎の屋内階段で1階に降り、そこから外に出てA-1と同様のルートを通り、スロープを通過して校庭に出る。距離は172m、所要時間は182秒である。

A-5のルートを説明する。3階西側教室を出て、一番近い階段を通り、A-3、4と分かれて道路上空通路(1)を使う。そのまま屋外階段を通り、校庭に出るというルートである。距離は約115m、所要時間は127秒である。

2本通路案の場合の避難距離と時間は以上である。

委員長

2～3分もかかるものなのか。

パソコン

これらは校庭までの時間なので、屋外に出るまでは1分かからない程度だろう。

委員

3階からの避難ルートが示されたが、2階、1階からの検証は出来ていないのか。

パソコン

もっとも遠い3階で避難ルートを示したが、2階、1階ならばより短縮できる。

委員

マンションや旅館では、火災時は室内階段が煙突になってしまうので外階段での避難が推奨されているが、一般的に、校舎には外階段は設けないものなのか。

パソコン

地上3階以上の建物になるので、竪穴区画と言い、防火戸もしくは防火シャッター等を設けるようにする。それで煙の侵入を防ぎ、逃げられるように設計している。そのため、屋外階段、屋内階段に特に大きな違いはないということで設定している。

委員

屋外階段は建物に通常つけるものだろうし、避難ルートは多い方が良いと思うが。

パソコン

階段は北側校舎に4つ、南側校舎に2つあり、それで満足できる設計になっているが、特に屋外階段の要望があれば、検討する。

委員

図面上で計算されているが、実地検証して出した数字ではないので、児童が玉突きになったらどうなるのだろうかと思う。研究所と協力してソフトウェアを使えばもっと精緻な数値を出せると思う。実際には、今出されている時間の2倍はかかるのではないか。

パソコン

児童の通常の歩行時の速さで計算している。実際の避難時は多少早くなると考えている。

委員

屋内運動場から校庭までの避難はどのように想定したのか。青い線を通るのか。

パソコン

そのルートもあるが、道路上空通路は使わずに、敷地外の道路を歩いて校庭に逃げるのが一番早くかつ安全なルートだと思う。北側敷地1階南側敷地2階平面図の図面下側の児童用出入口から敷地外に出て道路を歩いて逃げる方法がある。

委員

避難通路は、できるだけ多い方が良いと思う。外階段はいくつ設ける予定なのか。

パソコン

外階段は一切つけていない。

委員

何か理由があるのか。

パソコン

中で避難することを考えているので、特段外につける必要はないと考えた。

事務局

2方向避難を確保して、煙は設備的に対応するということが一般的な手法なため、現在は外階段を想定していない。そこまでしなくても避難経路を確保できると考えている。ただし学校の運営や児童の動きを想定した場合、困難だということがあれば、さらに検討を進める余地はあると思っている。

委員

今の第八中学校には、北側校舎のお墓側と東側の坂のところに外階段が一つずつあると思う。

経路はできるだけ多い方がよいので、外階段を使うということも考慮に入れてもらえるといい。外階段を利用できれば、一つの階段に児童が集中せず、トラブルを避けられるのではないか。

パシコン

屋外階段を設けたとしても、付近に室内階段があるので、ルートとしては変わらない。

委員

1階の下に避難用階段が一つあるが、もう一つつけてほしい。1階の児童は、出来るだけ階段で一気におりてほしい。中よりは外の方が安全だと思うので、外階段の設置を希望する。

パシコン

区と相談して決定する。

事務局

2枚目の北側敷地1階南側敷地2階平面図の、道路の横にある避難用階段を、もう一つ設けてほしいということか。

委員

そのとおりである。上方部にもつければ、1階の児童はその2本を使って早く降りることができる。

事務局

外階段については、安全性が高まるのであれば、我々も検討したい。今後の設計が進んだ段階でご確認いただきたい。

委員

南側の乳幼児室や学童クラブの出入口はどこにあるのか。

パシコン

後日の図面に記載する。

委員

ここを上手く抜けられるように何とかしてほしい。

委員長

では最後に、統合委員会として新校舎整備に関する意見をまとめたいので、一人ずつ順番に意見を述べてほしい。

委員

特に無い。

委員

今までの流れで、教育委員会が我々の意見や疑問を非常に真摯に受け止めて検討してくれていると感じた。自分はこの会に参加して良かったと思う。皆様、仕事や家庭がある中で貴重な時間を割いてこの場に臨んでいるので、会が形骸化せず、実のあるものになったことはとてもありがたい。

新校舎について多くの意見や質問が出たが、基本的には、一番児童と接している先生方の思いが十分に反映された施設であってほしい。また、避難や育児、ボランティアの分野で地域に寄り添い、共生できる学校づくりをしてほしい。

委員

自分は失礼なことを申し上げた場面もあったかもしれないが、子どもを預ける立場からの発言だったということをご理解いただきたい。

文部科学省は、小学校施設整備指針を度々改定しているが、通学経路については、交通頻繁な道路、鉄道線路等との交差を避けるなど、安全な通学経路を確保できることが重要だと書かれている。また、職員室は、屋外運動場やアプローチ部分への見渡しが良く、校内各所への移動に便利な場所に設置することが重要だと書かれている。この重要という表現は、最優先されるべき事項であることを意味する。当該校が国の指針から少し外れた設置状況になるので、区内でも最高レベルの防災・防犯面、ハード面やソフト面の構築が求められているのは明白である。

例えば、校庭に設置する防犯監視カメラの映像を、職員室、保健室、警備室等のモニターで見

られるようにしてほしい。また、児童の見守りについてはキッズ・プラザの職員に協力してもらおうという話が前回あったので、学校の教職員とどのような連携体制、協力体制を築いていくかという議論を開始してほしい。

それから、地震発生時にブラックアウトが起こって電気が通じなくなるおそれがある。そうした時の学校内での通信連絡放送手段のようなものを議論してほしい。

また、開校後も、避難訓練を重ねていく中で課題が見つかると思うが、その場合は早急に教育委員会に課題として上げて、対策を講じてほしい。法律上も、安全確保に対する学校設置者の責任が明記されている。

また、西武新宿線を渡る跨線橋については、早急に設置の準備を関係各所と調整して始めてほしい。児童と教職員を合わせて約 550 人になると思うが、何かあって命を落とすようなことがないように、保護者が安心して児童を預けられるように今後も議論を続けてほしい。

また、鷲宮小学校にはピオトープや自然観察ができる植物や飼育小屋がある。これらは児童の情操教育に資するが、レイアウトを見るとスペースが無いように思う。先生方から、児童の育成過程においてこうしたものが必要だという意見があれば、ぜひ聞き入れてほしい。

委員

避難経路に関しては、いろいろなルートがあるということが分かり、不安が少し減った。ただ、統合新校が一足制になるということだが、小学校 1 年生の男子は、雨の日には水たまりに率先して入ってしまうほどやんちゃで、靴がすぐ汚れてしまう。長靴を履かせるとしても、それで 1 日過ごすのは大変なので、雨の日でも運動靴を履かせた方が良いのだろうかと思しい。小学校の場合は、従来通り外履きと上履きを併用する方が衛生的で良いのではないだろうか。

委員

特に無い。

委員

最初はこの場所に学校を建てることに懐疑的だったが、皆さんの意見を受けながら図面が作られていくうちに、だんだんイメージがわくようになった。

踏切については、跨線橋が間に合わない場合でも、人を配置して対応できるのではないかと思う。今でも PTA が見守り活動をしており、そうした協力ができる地域である。自分は 2 人の子どもを第八中学校に通わせたが、当時、昼休みに地域の方々が 2 人で組んで中学生が悪さをしないように見守っていた。呼びかければおそらく大勢の人が協力してくれると思うし、必要であれば自分も協力する心づもりである。

また、自分も一足制については、メリットとデメリットを考えた。下駄箱は無い方が良いと思う。しかし、雨の日に長靴で登校したとして、その後天気が回復した場合の体育は長靴で行うのだろうかという点が気になった。

委員

いざ図面を目の前にすると、いろいろな課題があるのだということを改めて感じた。皆さんが思いのたけを述べて、たくさんの意見を整理できたことはよかったと思う。

自分の思いは 4 つある。まず、地域の防災防犯も含めた、児童の安全が確保された校舎配置してほしい。2 つ目は、踏切対策も含めた通学路が安全なものであるように担保してほしい。3 つ目は、キッズ・プラザの民間事業者との連携や、校舎のメンテナンスなどの細かな運用面の検討を徹底してほしい。最後は、学校の教職員の意見を必ず反映して進めてほしいということである。

委員

住宅街の中にあるが、その地形的な問題を考慮して、良い設計になってきたと思う。ただ 1 点、職員室、校長室等を、学校図書館、地域開放図書館の場所に持ってきて、校庭に面するようにした方が良いのではないかと思う。前回、職員室は教室から遠くなるためこの位置に配置したという説明があったが、教室から遠くなるデメリットと視認性のメリットを比較考量した場合、視認性が優先されるべきなのではないか。また、北側の校舎の教室への移動が長くなるとしても、大

人なので、そのくらいは先生に頑張ってもらえば良いのではないかと思います、提案させていただきたい。

この地理的条件の中では、この配置案くらいしかないのではないかと思います。前々回に自分は過激な発言を申し上げてご迷惑をおかけしたが、内心は今も変わっていない。南側の西住宅地域の再開発も視野に入れれば、平地を捻出する余地もあるのではないかと思います。それはまだ10年先の話になると思うので、小学校がこの先数十年続いていくことを考えると、この10年を待ってみても良いのではないかと思います。

委員

自分も一足制について心配をしている。1年生の男子は、どこを歩いてきたのだろうかというほど靴を汚す。また、体操着に着替えるときに、床にお尻をついてしまう児童が必ずいると思うので、衛生面が心配である。また、自分が小学生だった時に、学校の一部を改築して、図書室とコンピュータールームが、上履きを脱いで上げられる内装になった。今でも、上履きを脱いで靴下のままで入れるというのは、学校内でものんびりできてほっとできるスペースだったという記憶がある。どこかで靴を脱いで上げられる教室が一つでもあれば良いと思っているので、検討いただきたい。

委員

この委員会で学校の先生たちの意見を聞くべきだという意見が出てからは、教育委員会も事前に自分たちの意見を聞きながら配置案を作ってくれるようになったので、ありがたく思っている。今後も教室の配置の中で児童の1日の生活の様々な場面を、良い形にしていけるように、我々が責任を持って協力していきたい。

また、一番遠い教室から校庭までの避難経路を説明されたが、実際の様々なケースを考えれば、全員が校庭に避難するわけではない。まず校外に出るにはどうすれば良いのかといった細かい児童の動線について、皆様がしっかり考えてくれている点を有り難く思った。この土地の構造だと校庭に避難できないケースが多いと思うので、まずは安全に外に出て、その後どこに集まって自分の安否を確認するかということは、その時の教職員の知恵と工夫で運用していくしかないと思う。それを前提に、第二次避難場所を考える必要があると思う。

一足制について話が出たが、鷺宮小学校にも和室があり、統合新校校舎等整備基本構想・基本計画の策定に関わるアンケートでも、そうした部屋があると良いという声はあった。ただし靴を脱ぐリスクはあって、避難時に靴を履く動作をワンクッション挟むのでどうしても時間がかかる。そうした経緯があって、無くなってきている部分もある。様々な経験をもとに配置を考えたい。

自分が中野区に来た時、最初は桃花小学校に赴任したが、統合後に体育館の建て替え工事があり、児童がいる状況で1年半体育館工事があった。児童の安全確保等について、こちらの意見を聞いてもらえない場面が多かった。結果として良いものは出来たが、本当はもっとこうしかったといういろいろな思いがあった。今回は開校の5年前からこうした話が始まったので、いろいろな意見を反映してより良くなるように貢献できれば良いと思っている。

委員

美鳩小学校やみなみの小学校などの先行している統合新校においては、統合委員会が解散後にこうした新校舎の設計が進んでいる。学校や地域住民の十分な理解を得られないまま計画が進んでいると自分は認識しており、大変問題だと考えている。一方でこの統合委員会では、新校舎について具体的に意見交換ができて、ほぼ合意形成ができたというのは大変価値があると考えている。このように住民を代表する委員や学校の意見を十分に聞いてそれを反映することが、統合についての理解を得る近道になると考えている。今後とも住民の代表である委員と学校の意見を十分に聞いて反映してほしい。

委員

自分は初めてこうした会に参加させてもらったが、皆様が子どもたちの安全を一番考えてくださっており、発言する自分たちの責任も重いと感じている。新校舎で児童が楽しく活動するイメージがわいてきた。

道路上空通路が問題になっているが、児童は渡り廊下が大好きなのではないかとも思う。また、地域の方々はとても協力的な姿勢だ。地域や保護者の方々と連携してより良い新しい形の学校ができるといい。

委員

この会に出て、地域の方の子どもたちに対する愛がよく分かった。学校で安全だと思っている部分も、違う面から見るとそうとは限らないのだと勉強になった。学校に来てもらい、学校の意見を吸い上げてくれるというのも、とても良いと思った。これから教室の配置などでさらに意見が出てくると思うが、子どもたちの安全の事を一番に考えてレイアウトしてほしい。

委員

自分は特にない。

委員長

皆様から戴いた意見を、教育委員会と設計会社で相談して、親御さんが安心して子供を通わせられる学校にしたい。また、西武新宿線が地下化されるのか、高架化するのかが決まっていないので、まずは安全第一を強く申ししていきたい。

事務局

複数の方からご意見を戴いた一足制については、教育委員会で現在捉えているメリット、デメリットを踏まえて、次回の議題とする。デメリットも、ソフトの工夫で克服できる部分も大いにあると思う。ここでそうした意見を交わせば、実際の運用面にも反映できる部分が少なからずあると思う。確かに今まで一足制ではなかったので、どなたも不安や意見があると思う。統合委員会で意見を戴き、また、地域の方にもこういうことらしいということを伝えていってほしい。

事務局

では、これまでの協議で出された意見をもとに意見をまとめているので、読み上げる。

◎資料「統合新校校舎の改築に関する意見について（案）」

- ・ 学校敷地の間を公道が通るといふ校地形状の特殊性を考慮し、児童の安全を確保できるよう十分な対策を講じていただきたいと思います。
- ・ 両敷地間を結ぶ道路上空通路の設置にあたっては、児童と教職員が日常生活に支障なく安全に利用でき、災害時においても、迅速かつ安全に避難できるように配慮していただきたいと思います。
- ・ 学校は災害時の地域の避難所機能を担うため、安全性と十分な量の備蓄物資を確保する他、様々な事態に対応できる施設設計にいただきたいと思います。
- ・ 統合新校舎が周辺の住宅に及ぼす騒音等の影響を最小限にとどめるように配慮し、児童がのびのびと学習や運動ができる施設にいただきたいと思います。
- ・ 将来的な西武新宿線の高架化あるいは地下化が学校敷地へもたらす影響を考慮した施設計画にいただきたいと思います。
- ・ 西武新宿線の開かずの踏切対策について、区は実情をしっかりと把握し、通学時に児童が安全に線路を越えられるよう具体的な対応を検討していただきたいと思います。
- ・ 学校を使用している児童教職員の意見は、統合新校校舎改築の際にできるだけ反映していただきたいと思います。

委員長

以上を委員長、副委員長、学校、事務局で調整して意見書の最終版を作成したいと思うが、よろしいか。

—異議なし—

委員長

では、そのように進める。

議事（２）その他

委員長

本日予定していた議事は以上だが、何か意見があれば伺いたい。

委員

統合委員会ニュースについて、地域の方から言われたことがある。図面の中に今の校門の位置が書かれているので、これが新校舎の校門かと思ってしまったそう。それをできれば消してもらい、新校舎の門を明記してほしい。

また、北側敷地２階・南側敷地３階平面図についてだが、階段にドアのような線があるが、ここから階段におりるといことが分かりにくい。我々は分かるから良いが、地域の方は分からないので、ここを改善してもらえると良いと思う。

事務局

門については、新校舎での位置が分かるようにして、不要な情報は消去する。もう一つの話については、校庭から屋外階段に上がるところの階段の線ということか。これは扉ではなく、途中で切れて見えなくなる部分があるので、２階に上がる等の文言を入れて、初めて図面を見る人でも分かるような工夫をしたい。

委員

意見案の「開かずの踏切対策について、区は実情をしっかりと把握し、通学時に児童が安全に線路を越えられるよう具体的な対応」というのは、もうトンネルや跨線橋は出来ないということか。しかしながら、人を配置して監視するのでは不十分で、ハードでの確かな対策が必要だと思うが。

事務局

この意見案は大きくりのものである。前回話した通り、跨線橋をつくれないうことを西武鉄道と話している。費用や立体交差事業との関係性の中でどうなるかということかどうしても出てくるが、教育委員会としては、子どもの安全はお金に代えられないものだと思っているので、その線を追究していきたい。ただ、現実的に無理だということが分かった場合、それに代わる最善の策は何なのかをしっかりと考えていきたい。そうしたことを細かく書くと長くなってしまふので、ここではこのような表記にしている。

委員

杉並区に行って帰った時に、井荻から最後の西中野のところまでずっと踏切が開かなかった。中には待ちきれずに踏切を開けて通ってしまう人がいるかもしれない。

委員

自分も一度、踏切がどのくらいの間開いているのか、調査した。５秒ほどで閉まってしまう時もあった。その日は遅延が発生して、ひどい時は３０分間ほど開かなかった。第八中学校の生徒が立ち往生していたのでどうするのか尋ねたら、駅の渡り通路を使うしかないと言っていた。中学生は踏切が原因で遅刻した場合には、毎回、踏切遅延証明を申請して発行してもらっているそう。先生が駅に、逐一、本当に遅れたのかを確認している。これを小学校１年生にさせられないし、これを毎回やるのは先生の負担が大きく、現実的ではない。踏切を渡る何らかの手段は必須だろう。

委員

調査によると、ラッシュ時は1時間のうち40分間は閉まっている。

事務局

自分も先月、朝7時から8時半まで踏切に立った。また、数年前に鷺宮すこやか福祉センターがあそこにあった時に2年間勤務していたので、通常時と遅延時の状況、場合によっては自転車を持って駅を乗り越えるという方もいることも存じている。そうした状況で何が出来るかを考えていきたい。

あとは線路を跨ぐ以外にも、中杉通りをいかに安全にわたるかという話も、重要なポイントだと思っている。その点については、地域の皆様が一番危険を承知されているので、そうしたことも含めて意見をさら戴き、ハードで解決できるのか、ソフトで解決できるのか、また税金を投入すべきなのか、地域の力でお願いできるのかをご相談したい。

委員長

他に意見等があるかを伺いたい。なければ、次回の予定を報告する。次回は2月27日水曜日の18時30分から、鷺宮区民活動センターで行う。事前に関催通知と資料を送付し、皆さんが検討できるようにする。本日の統合委員会は以上で終了する。